

学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組み課題	生徒の自立支援
評価指標	1 中途退学率の減少 2 進級卒業率の向上 3 学校教育自己診断における生徒の入学満足度の向上
計画名	野崎高校 生徒全員Light Up!作戦 ～生徒一人ひとりがスポットライトを浴びて主役になれる舞台づくりにより、自尊感情にLight Up!～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	3 高校生として必要な規範意識や社会性、人権尊重の精神等の育成に努め中途退学を防ぐとともに、すべての生徒が安全・安心に生活できる学校づくりを推進する (2) 人権教育や総合的な学習の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神の育成を図る。 (3) 学校全体で生徒のコミュニケーション力を向上させる取組みを充実させるとともに、部活動、生徒会活動を活性化し、自立心や主体的に行動する態度を養う。 ※平成30年度までに生徒の卒業率を、5%向上させる。 ※平成30年度までに学校教育自己診断の「学校へ行くことが楽しい」「担任以外に相談できる教員がいる」の項目を70%以上にする。
事業目標	「生徒一人ひとりを大切にしたい学校」として生徒全員の自己実現を支援するため、従来より実践している学力向上・進路実現の取組みに併せ、学習意欲・進路実現意識の土台となる自尊感情のさらなる育成を目標とする。そのために、生徒主体の学校行事の更なる推進を図る。具体的には、体育館舞台における舞台・照明・音響等の設備を充実させ、生徒が文化祭や総合的な学習の時間等における舞台発表へ向け意欲的に取り組むやすい環境を整える。演出・キャスト・照明・音響など、舞台発表の際に必要な役割の多様化・明確化を図ることで、舞台発表に取り組む生徒集団に自己決定・集団決定の機会を与え、自治を実感させる。行事の成功という共通目的を達成するために生徒一人ひとりが自らの役割を「自律」的に担い、他者との協働により「自主」性を養い、「創造」的な行動力を高めるための仕掛けをすることにより、生徒の自己有用感・自己肯定感の向上を図る。行事を通して生徒の「挑戦することができた」「他人の役に立った」「他人に喜んでくれた」という経験を促し、実社会につながる学びの機会を与えることで、生徒の学習意欲・進路意識の向上を図り、自己受容・自己決定に基づく進路実現につなげる。（校訓「自律」「自主」「創造」） ※生徒の卒業率を毎年3%向上させるとともに、学校教育自己診断における生徒の入学満足度を毎年2%向上させる。
整備した 設備・物品(数量)	ホリゾン幕1、張り出し舞台1、調光操作卓1、DMX信号分配器1、DMX信号ケーブル1、LEDスポットライト11、LEDスポットライト用スタンド11、2分岐ケーブル1、プレーカー付き変換ケーブル4、延長ケーブル28、LEDフットライト（ローアホリゾンライト兼用）8、LEDフットライト用電源ケーブル7、LEDフットライト用DMX信号ケーブル7、ボーダーライトコントロール用コネクターボックス1、コンセントボックス1、ボーダーライトコントロール用リモコンスイッチボックス1、ボーダーライト用制御ケーブル1
取組みの 主担・実施者	取組みの主担：Jump Up! PT（首席2名及び教職経験5年以上10年以下の教員25名の計27名、うち7名は運営委員会に所属、2名は生徒会担当）
本年度の 取組内容	次世代ミドルリーダー育成と学校組織力向上を目的とする府教育庁「診断支援チーム」事業に係る全4回研修を活用し、受講者全員をJump Up! PTのメンバーとして学校課題実践・評価を展開（8・10・12・2月）。各教員の意見を反映させた「育てたい生徒像」を基に学校課題を「授業改善」「総合的な学習の時間」「生徒主体の行事づくり」に焦点化し、H27学校経営推進費事業「野崎高校 生徒全員Jump Up!作戦」と連動させた①～⑩の取組みを企画実施。①先進事例視察：【教員文化祭見学ツアー】府立学校9校に延べ23名の教員が視察（9月）。【北摂つばさ高校】演劇授業「ステージ表現」に係る放課後練習を3名の教員が見学（1月）、舞台発表発表会「つばさコレクション」に2名の教員が参加（1月）。②資質向上のための研修：日本教育会学校心理カウンセラー研修講座（8月東京3日間）、ピア・トレーナー養成ワークショップ（12月大阪2日間）に生徒会担当教員が参加。③文化祭：3年生6クラス中5クラスにおいて演劇・ダンス等の舞台発表を実施（11月）。④体験入学会「チャレンジ野崎」：企画・当日運営とも生徒会をはじめとする生徒主体で実施。体育館でのオープニングセレモニーでは今年度初の試みとして部活動生徒によるダンス・バンド演奏を実施（11月）。⑤スマホサミット：生徒会役員3名の生徒が3大学のサポートを受け府内14校（小・中・高）児童生徒とのワークショップ（6・9・11月）に参加しその成果を外で発表（12月）。その後校内にて全校生徒に対し伝達講習を実施（12・2月）。⑥学校教育自己診断を通じた評価：Jump Up! PT全体で今年度取組みに係る成果を検証、併せて来年度取組み重点とそれに係る評価指標を校長に提言（2月）。⑦体育館舞台装置活用教員研修：外部講師・業者の指導助言により照明・張り出し等の操作・活用方法を習得。教員延べ55名参加（2・3月）。⑧生徒リーダー研修：卒業生を講師に迎え昨年度の内容を発展させて実施。在校生約50名が参加予定（3月29日）。⑨各授業での発表活動：年間を通じ、調べ学習・プレゼンテーション等の探究・表現活動が活性化。⑩Jump Up! PTコアチームの立ち上げ：総合的な学習の時間や遠足・修学旅行等の特別活動の在り方について、「育てたい生徒像」を基に各授業内容と連動させながら学校総体として考えることが目的。来年度本格始動を見据え、首席・各学年主任・各担当が集まり先行的に実施（3月）。
成果の検証方法 と評価指標	① 中途退学率を前年度比3%減少させる（平成27年度4.7%）。 ② 第1・2学年における進級率をそれぞれ前年度比3%向上させる。 ③ 卒業率を前年度比3%向上させる（平成27年度95.7%）。 ④ 学校教育自己診断における「学校へ行くことが楽しい」を前年度比2%向上させる（平成27年度66.9%）。
自己評価	※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×） ①中途退学率は4.1%であった（前年度比-0.6%）。（△） ②第1学年の進級率は89.6%（前年度第1学年89.2%、+0.4%）、第2学年の進級率は89.8%（前年度第2学年88.6%、+1.2%）であった。（△） ③第3学年の卒業率は96.4%であった（前年度比+0.7%）。（△） ④生徒向け学校教育自己診断の「学校へ行くことが楽しい」は66.3%であった（前年度比-0.6%）。（△） ・教職員向け学校教育自己診断では、「生徒会活動を通して生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している」が72.0%（前年度比+9.0%）となり、診断支援研修での実践を通じた教員の意識変容が反映されている。（◎）
次年度に向けて	Jump Up! PTを校長の諮問機関および課題別の企画展開型組織として持続発展させ、メンバーの内発的な動機づけにより「授業改善」「総合的な学習の時間」「生徒主体の行事づくり」の取組みを深めていく。 ①授業改善：「野崎高校 生徒全員Jump Up!作戦」と連動させ、各授業で生徒主体の発表・表現活動を教科横断的に取り入れる。成果発表会の機会として体育館舞台を活用し、取組みに対する満足度・達成感を向上させる。 ②総合的な学習の時間：Jump Up! PTのうち首席・各学年主任・各担当等によるコア・チームを作り、「育てたい生徒像」を基にこれまでの内容を精査するとともに、遠足・修学旅行・芸術鑑賞など特別活動の内容とも連動させながら、3年間を見据えた系統的な計画を再構築する。他校への先進事例視察も併行し教材開発を進めながら計画を練り上げ、平成30年度からの運用をめざす。 ③生徒主体の行事づくり：生徒会が運営主体となり「スマホサミット」「生徒リーダー研修」「生徒リーダー研修」をさらに発展させる。また、新入生歓迎や卒業生送別に係る生徒会行事をはじめ、年間を通して効果的な舞台活用機会を設ける。体験入学会「チャレンジ野崎」では、企画・準備・運営をさらに生徒主体で進めるとともに、オープニングセレモニーではパジャマアップした体育館舞台を最大限に活用し、在校生の発表活動・中学生への広域活動の場とする。さらに、文化祭に係る活動では、1学期に体育館舞台装置組み立て・片付けに係る生徒向け講習会を実施する。2学期、文化祭実行委員会において舞台小委員会を拡大し、演出・キャスト・照明・音響等の詳細に係る各講習会を実施する。文化祭終了後、次年度の生徒へ向けた伝達講習用メディア・資料を作成する。 【評価について】PT全体で学校教育自己診断の目的・項目づくりを行うなどして、生徒の成長度・教員の組織化度を適切に評価する体制を整える。